

保証書

この製品は、厳密な品質管理及び検査を経てお届けしたものです。正常な使用状態において、万一故障した場合には、お買い上げ販売店に必ず本保証書を提示の上、修理を依頼してください。別掲の保証規定により無料で修理いたします。

※印欄に記入がない場合は、無効となりますので、お買い上げ時に必ず記入の有無をご確認ください。

商品名	RT-2001	
保証期間	※ お買い上げ年月日	1 年 間
	平成 年 月 日から	
※ お客様	住 所	〒 電話
	氏 名	様
※ 販売店	店 名	®
	住 所	〒 電話

本保証書は再発行しませんので大切に保管してください。



株式会社 **マルハマ**

〒232-0023 横浜市南区白妙町4丁目43番地4
サービス部：TEL. 045 (251) 2687

 **MARUHAMA**

ワイドバンドハンディレシーバー

RT-2001

取扱説明書

〈保証書付〉

RT-2001をお買い上げいただき誠にありがとうございます
ございます。

この取扱説明書は本機を正しくお使いいただくための
ガイドブックです。ご使用になる前に本書をよくお
読みになり、内容を十分理解された上でご使用くださ
るようお願いいたします。

また、本書はいつもお手元においてその都度ご参照
ください。

目次

1. 安全についてのお願いとご注意	1
2. 製品の構成	6
3. 本機の有する機能と特長	7
4. ご使用になる前に	8
5. 各部の名称とはたらき	10
6. メモリーバンクの受信エリア	12
7. 基本操作編（ビギナー操作）	
1. 簡単受信操作例	14
2. 受信中のチャンネルが終了または電波が非常に弱くなって受信できない場合は	16
3. チャンネルを受信中に他のチャンネルを聞きたい場合は	16
4. マニュアルサーチをする場合①	16
5. マニュアルサーチをする場合②	17
6. モニター機能	17
7. スケルチの設定	17
8. 応用操作編（ステップ1）	
1. 聞きたい周波数（チャンネル）をダイレクトに受信する	18
2. チャンネルステップの設定	19
3. 受信モードの設定	19
4. ディレイ時間の設定	20
5. 秘話通信（スクランブル）の解読	21
6. プログラム受信	22
9. 応用操作編（ステップ2）	
1. 盗聴電波の受信	23
2. 盗撮電波の受信	24
3. 盗聴、盗撮器の場所の特定方法	25

10. 応用操作編（ステップ3）	
1. メモリーの登録	28
2. チャンネルメモリーの登録、受信	28
3. エリアメモリーの登録、受信	31
4. 盗聴、盗撮電波の登録	33
5. パスメモリーの登録	34
6. プライオリティ・チャンネルメモリーの登録、受信	35
11. ファンクションキーを使用した機能	38
12. 電源ON時の機能	41
13. 故障とお考えになる前に	42
14. 主な仕様	43

— 1. 安全についてのお願いとご注意 —

安全についてのお願い

本機を安全にご使用いただくには、正しい操作と安全に関する注意事項をお守りいただくことが必要です。本書では、最初にもしお守りいただかないと重大な人身事故につながるおそれのある事項を“警告”として掲げています。次いで、もしお守りいただかないと、使用者がけがをしたり、製品の損傷や故障につながるおそれのある事項を“注意”として掲げています。また、“法的規制”、“機能的上の制約”についても説明しています。

本書では“警告”と“注意”に関し、マークを付けて注意を促しています。それらの使用区分は次のとおりです。なお、各マークの外枠の中の小マークは具体的な内容を示します。

-  : 警告、注意（特定しない“警告”と“注意”を示します。）
-  : 禁止（“警告”と“注意”の内、してはいけないことを示します。）
-  : 強制（“警告”と“注意”の内、しなければならないことを示します。）

本機をご使用になる前にこれらの内容をよくお読みになり、十分理解の上操作してください。“警告”や“注意”は本機を本書に規定する目的で使用する場合のみを想定しています。本書に書かれていない方法での使用は絶対に避けてください。規定外の方法でご使用になったことによって発生した事故などについて、弊社は一切の責任を負いません。

なお、本書を紛失、汚損された場合は切手400円分を同封の上、弊社宛にご請求ください。

安全についてのご注意

警告

(人身の安全のためにお守りいただくこと)

使用場所、使用環境

-  ■自動車、自転車など乗り物を運転中に操作しないでください。
乗り物の運転中に本機を操作することは、交通事故の原因になりますので、絶対に避けてください。
-  ■人混みの中では使用しないでください。
アンテナが目などにあたり、けがの原因になります。
-  ■本機に水がかかる可能性のある場所で使用しないでください。
風呂場では使用しないでください。また、雨天時、海岸、水辺での使用時には水がかからないように十分注意してください。水がかかった場合はすぐに拭き取ってください。また、万一内部に水が入った場合は直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合にはコンセントから抜いてください。
そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。
-  ■雷が鳴り始めたら本機の使用を中断してください。
雷鳴時に本機に触れますと感電の原因になります。

分解、改造の禁止

-  ■キャビネットは絶対にあけないでください。
本機は精密部品を多数搭載しています。分解や改造を加えますと故障が起き、また感電の原因になります。

電源、電源コードの取り扱い

-  ■定格外の電圧で使用しないでください。(ACアダプター使用時)
定格外の電圧を加えますと異常に発熱し、火災や感電などの原因になります。
-  ■外部電源を使用する場合はかならず弊社純正のACアダプター（付属品）をご使用ください。
他社製アダプターを使用しますと故障の原因となるのみならず、異常に発熱し、火災の原因になります。また、本機同様、ACアダプターの分解や改造は避けてください。
-  ■電源コードを傷つけたり、傷んだ電源コードを使用しないでください。
電源コードが傷んだまま使用しますと、火災や感電の原因になります。

異常検出時の対処

-  ■発熱、発臭、発煙を検出した場合には直ちに使用を中止してください。
これらの異常を検出した場合には、直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合はコンセントから抜いて使用を中止してください。そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。修理は販売店に依頼してください。お客様ご自身での修理は絶対に避けてください。

⚠ 注意

(けがや本機の故障を避けるためにお守りいただくこと)

使用環境、取り扱い

-  ■衝撃や振動を加えないでください。
衝撃や振動を加えますと、精密部品が壊れ故障の原因になります。
-  ■テレビ、ラジオなどの電子機器から離れた場所でお使いください。
強い電磁波を発する電子機器の近くでは正常に動作しない可能性があります。
-  ■規定範囲内の温度条件下でお使いください。
本機は-10℃～+60℃の範囲で動作します。この範囲外で使用しますと故障の原因になります。

乾電池の取り扱い

-  ■電池を本機に挿入する場合は極性（プラス、マイナスの方向）に注意し指示通りに正しく挿入してください。
間違えて挿入しますと、乾電池の破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■長期間使用しないときは、本機から乾電池を取り外してください。
長期間本機に乾電池を入れたまま放置しますと、乾電池の液漏れにより、故障の原因になります。
-  ■新旧の電池を混ぜて使用しないでください。
電池の劣化を早めるとともに破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■使用済みの電池をふつうのゴミと一緒に捨てないでください。
使用済みの電池は環境保全のため、地域で定められている“電池回収日”に所定の箱に入れるか、あるいは電器店の“電池回収箱”などへ入れてください。

保 守



■長時間で使用にならない時はACアダプターをコンセントから抜いてください。

そのまま放置しますと故障の原因になります。



■ケースが汚れた場合は柔らかい布またはティッシュペーパーで拭き取ってください。

シンナー、ベンジン、化学雑巾などを使用しますと、キー上の文字が消えたり、ケースが変形するおそれがあります。また、お手入れの際はかならず本機の電源を切ってください。



法的規制



■電波法を遵守してください。

電波法第五十九条により、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受し、その存在もしくは内容を第三者に漏らしたり窃用することが禁止されています。厳重に注意してください。

機能上の制約



■日本国内で使用してください。

本機の使用は日本国内向けとなっています。外国では電波方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

■音声、雑音とは違う信号音を受信することがあります。

本機はアナログ通信を対象としており、デジタル通信や制御チャンネル通信、また音声反転方式以外の秘話通信を解読することはできません。その場合、雑音とは違う信号音を受信します。

■内部干渉により指定帯域外の電波を受信することがあります。

■使用場所により受信できない場合があります。

電波の遮断された建物の中、電波の届かない山中、強い電波が発射されている放送局の近辺などでは受信できない場合があります。

2. 製品の構成

お買い上げいただいたRT-2001は次の品目から構成されています。

- 本機 1台
- ラバーアンテナ 1個
- ACアダプター 1個
- 取扱説明書兼保証書（本冊子） 1冊

3. 本機の有する機能と特長

■超高感度・高性能受信機

受信機能をコンパクトボディに集約。ワイドな情報を超高感度で受信します。

■簡単操作

わかりやすい液晶表示と簡単な操作性により、豊富な機能を簡単にご使用いただけます。

■27エリアをワンタッチ受信

本機では27エリアをあらかじめメモリーバンクに登録しています。聞きたい周波数帯をワンタッチで呼び出せます。

■メモリーへの登録

チャンネルメモリー（指定の周波数）およびエリアメモリー（幅を持った周波数帯を指定）をメモリーバンクへ登録することができます。

■プライオリティーチャンネルとパスチャンネルの設定

特定のチャンネルをプライオリティーチャンネルとして指定できます。プライオリティーチャンネルは、約3秒ごとに信号検索をおこない、信号が存在すれば優先的に受信します。また、自動選局中に受信を回避したいチャンネルをパスチャンネルとして指定できます。パスチャンネルに指定された周波数は受信しません。

■盗聴・盗撮電波の受信

VHF帯および、UHF帯を使用した、無線式盗聴・盗撮器が発信する電波を受信することができます。なお、無線式盗聴・盗撮器によく使用される周波数が、あらかじめメモリーバンクに登録されています。

■盗聴・盗撮電波の発見に便利な方向探知メーター搭載

盗聴、盗撮器の発信方向を表示できる方向探知メーターで盗聴、盗撮器の発見がさらに簡単になりました。

■秘話通信の解読

コードレス電話の秘話通信（音声反転方式）を解読できます。

■受信状態が一目でわかるレベルメーター

受信レベルをレベルメーターで表示します。

■その他便利な機能

次のような機能を内蔵しています。

- アッテネーター機能
- オートパワーオフ機能
- バックライト照明
- 操作音の消去

4. ご使用になる前に

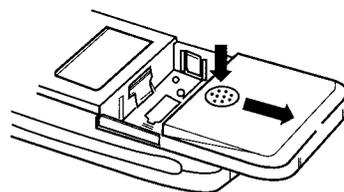
1. 電源について

本機の電源は乾電池（単3形 3本）を使用します。アルカリ乾電池の場合は、受信待機時で約24時間連続使用できます。また、付属のACアダプターを使用し、家庭用電源（AC100V）を利用することもできます。

※ACアダプターを使用して外部電源を得る場合は、かならず本機の電源を切ってから接続操作をしてください。

2. 乾電池の入れかた

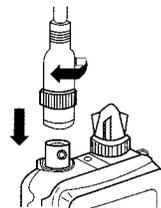
1. 図中に示した位置を強めに押し、そのまま本体下方にずらすようにするとバッテリーカバーが開きます。
2. 市販の単3型乾電池を、記載されている「+」と「-」に従ってセットします。
3. バッテリーカバーのツメを本体の溝に合わせ、カチッと音がするまで押します。



- 注意
- 電池は同じ種類のものを使用してください。なお長時間、本機を使用される場合は、アルカリ電池を使用することをお勧めします。
 - 古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。

3. 付属品の取り付け方法

〈アンテナの取り付け方〉アンテナの根元を持ち、底面の溝と本体のアンテナコネクターの凸部を合わせて差し込みます。アンテナを時計方向（右方向）に回して取り付けます。確実に取り付けられていることを確認してください。



- 付属のラバーアンテナ以外に、市販のアンテナ（BNC型）もご使用になれます。市販のアンテナを使用する場合は、目的の周波数に合う、インピーダンスが50Ωのものを使用してください。

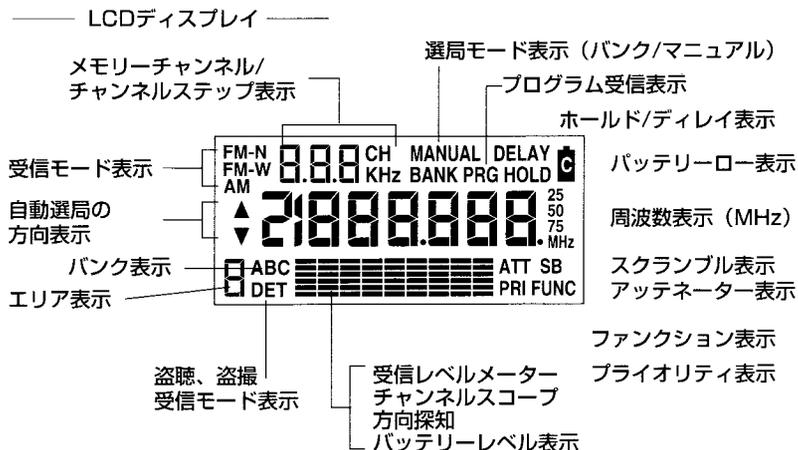
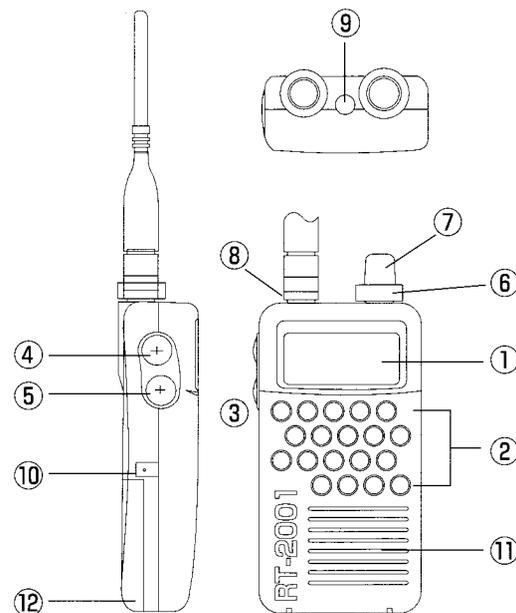
4. イヤホンで聞く場合

イヤホンでお聞きになる場合は、必ず音量を下げてから、イヤホンをつけてください。

- ① 音量ボリュームを下げ、市販のイヤホンを本体側面のイヤホンジャック(EAR)に接続します。
- ② イヤホンをつけた後、音量ボリューム(VOL)を回して適度な音量にします。

- イヤホンを接続すると、本体内蔵のスピーカーからは音が出ません。
- 音量ボリュームが同じ位置でも、イヤホンで聞く場合は、スピーカーよりかなり音が大きく聞こえます。イヤホンでお聞きになる場合は、音量に注意してください。

5. 各部の名称とはたらき



①LCDディスプレイ

周波数、チャンネルステップ、受信モードなどの表示と各動作モードを表示します。

②キーボード

受信エリア、周波数などを指定する数字キーと、メモリー登録などの機能をもった機能キーがあります。

③電源スイッチ/ライトスイッチ

本機の電源をON/OFFします。また電源ONのとき、短く押すとLCDのバックライトおよびキーボードが5秒間点灯します。

④スタート/ストップボタン

自動選局（オートサーチ）の開始および停止をします。

⑤モニター/スケルチ・キー

このキーを押すとモニターオンになります。信号の弱い時に押してください。また、1秒以上の長押しでスケルチ設定モードになります。

⑥音量ボリューム

スピーカーおよびイヤホンの音量調節ボリュームです。

⑦ダイヤル

周波数のマニュアル操作、スケルチレベルの設定、秘話解読に使用します。

⑧アンテナ端子（BNCコネクタ対応）

付属のラバーアンテナを接続します。市販のBNC型アンテナを接続できます。

⑨イヤホンジャック

イヤホンを接続できます。イヤホンを接続すると、スピーカーからは音が出ません。

⑩外部電源ジャック

付属のACアダプターにより外部電源を接続します。

⑪内蔵スピーカー

⑫電池蓋

6. メモリーバンクの受信エリア

本機では、よく聞くエリアを27エリアに分けてメモリーバンクに登録しています。お聞きになりたい受信エリアをワンタッチで呼び出せます。

メモリーバンクに登録済みの受信エリア

バンク	エリアNo.	受信エリア	受信周波数範囲 (MHz)	チャンネルステップ (KHz)	受信モード	デイレイ時間 (秒)
A	1	小電力コードレス電話	380.2125~381.3125	12.5	FM-N	6
	2	道路公団/JAF	148.8500~154.0300 357.3500~399.3750	10 12.5	FM-N	6
	3	特定小電カトランシーバー	421.5750~422.3000 440.0250~440.3625	12.5	FM-N	6
	4	航空無線	118.0000~137.0000	50	AM	6
	5	タクシー無線	364.8250 364.8375 364.8625 364.8750 365.5000 450.0125~451.5000 453.3000 453.3375	12.5	FM-N	6
	6	FMラジオ放送	76.1000~89.9000	100	FM-W	HOLD
	7	TV音声	95.7500~107.7500 175.750~221.7500 475.750~769.7500	6000	FM-W	HOLD
	8	業務無線・簡易無線	149.2900~159.0500 364.7500~468.8500	10 12.5	FM-N	6
	9	エリアメモリー	登録されたエリア			
	0	チャンネルメモリー	登録されたチャンネル			
B	1	アマチュア無線 (144MHz帯)	144.0000~146.0000	20	FM-N	6
	2	アマチュア無線 (430MHz帯)	430.0000~440.0000	20	FM-N	6
	3	バス・鉄道	142.9000~159.1700 352.5000~415.2000	10/20 12.5/25	FM-N	6
	4	防災行政無線	143.2600~158.5300 353.2000~467.3750	10 12.5	FM-N	6
	5	災害復旧用電話 海上自衛隊船舶 海上保安庁船舶	355.5250~355.5750 355.6000~355.7000 395.7875~396.2750	12.5	FM-N	6
	6	報道連絡波 電力・ガス・水道	143.5400~167.3300 364.9500~469.9750 146.0200~159.0900 364.5250~385.1250	10 25 10 12.5	FM-N	6
	7	905MHz~1499MHz	905.000~1499.9875	12.5	FM-N	6
	8	1500MHz~2000MHz	1500.000~2000.000	12.5	FM-N	6
	9	エリアメモリー	登録されたエリア			
	0	チャンネルメモリー	登録されたチャンネル			

バンク	エリアNo.	受信エリア	受信周波数範囲 (MHz)	チャンネルステップ (KHz)	受信モード	ディレイ時間 (秒)
C	1	消防・救急 (北海道)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	2	消防・救急 (東北・北陸)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	3	消防・救急 (関東)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	4	消防・救急 (東海)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	5	消防・救急 (中部)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	6	消防・救急 (近畿)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	7	消防・救急 (中国・四国)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	8	消防・救急 (九州・沖縄)	VHF帯・UHF帯		FM-N	6
	9	エリアメモリー	登録されたエリア			
	0	チャンネルメモリー	登録されたチャンネル			

盗聴・盗撮専用エリア (ディテクターモード)

エリアNo.	受信エリア	受信周波数範囲 (MHz)	チャンネルステップ (KHz)	受信モード	ディレイ時間 (秒)
1	盗聴電波	134.0000~154.5850 339.4500~442.9000		FM-N	6
2	盗撮電波	471.2500~501.2500 549.2500~585.2500		FM-W	6
3	盗聴・盗撮電波	エリア1, 2の周波数		FM-N/FM-W	6

メモ

- バンクCのエリア1~8 (消防・救急) は、同じ周波数帯を使用していますので、指定したエリアとは別のエリアの通話を受信する場合があります。
- チャンネルステップ、受信モードおよびディレイ時間は、変更することができます。
- チャンネルメモリーおよびエリアメモリーにメモリー登録するときは「メモリーの登録」をご参照ください。

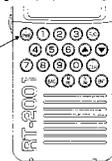
7. 基本操作編 (ビギナー操作)

本書は本製品を初めて操作される方に慣れていただくための基本操作編と多彩な機能を活用していただくための応用操作編にわけて説明しています。

1. 簡単受信操作例

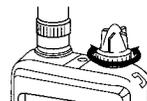
操作例として、バンクAのエリア1に登録してある「小電力コードレス電話」をオートサーチして聞く方法を順に説明します。

①電源を入れます。



(L) PWR キーを1秒以上押し続けます。LCDディスプレイが表示されるまで電源スイッチ (PWR) を押し続けてください。

②音量を設定します。



本体の上部にあるダイヤルの下部のつまみで音量を調節します。

- 信号が入っている場合
つまみを右 (時計方向) に回すと音量が大きくなります。逆に左に回すと音量は小さくなります。
- 信号が入っていない場合
本体側面部の [MCM] キーを押してから、音量つまみを右または左に回します。スピーカーからノイズが出て、音量が確認できます。

③バンクモードにします。



(FUC) キーを押してから5秒以内に (BAK) キーを押してLCDの表示をBANKにします。このキー操作の度に、BANK ←→ MANUALが切替ります。

④バンクを選択します。

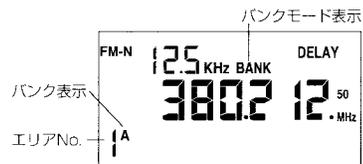


P12のメモリーバンク表から聞きたいエリアのバンクを選びます。
(BAK) キーを押す度に、バンク表示が A → B → C と切替ります。(ここでは例としてバンクAを選択します。)

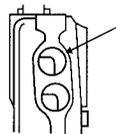
5 エリアを選択します。



聞きたいエリアのNo.を選びます。数字キーを押してエリアNo.を選択します。
(ここでは例として①キーを押し、エリア1の小電力コードレス電話を選択します。)



6 オートサーチ (自動選局) します。



[START/STOP] キーを押すとLCDディスプレイに“▲”マークが点滅して最初のチャンネルより上側にオートサーチを開始します。



- オートサーチ中に ▲ キーまたは ▼ キーを押すと、押した方向にオートサーチします。

7 チャンネルを受信すると

送信中の電波があるとその周波数でオートサーチを停止して受信状態になります。LCDディスプレイの“▲”または“▼”マークの点滅が止まり、受信電波の強さをレベルメーターで表示します。



2. 受信中のチャンネルが終了または電波が非常に弱くなって受信できない場合はディレイ (メモ参照) 時間分受信待機したあと、次に使用しているチャンネルまでオートサーチを開始します。

(注意)

- LCDディスプレイに“HOLD”を表示していたり“▲”マークが消えている場合は、そのチャンネルで受信待ちになります (オートサーチしません)。オートサーチさせる場合は [START/STOP] キーを1回押します。

● “HOLD (ホールド)” と “DELAY (ディレイ)” について…
LCDディスプレイに表示しているHOLDは、一度電波を受信すると、電波がなくなってもその周波数で受信待ちの状態になります。一方DELAYは一定時間 (設定された時間) 受信待ちをしたあと、オートサーチをはじめます。ディレイ時間は各エリア毎に初期設定してあります。
*ディレイ時間は設定を変えることもできます。(P20ディレイ時間の設定参照)

3. チャンネルを受信中に他のチャンネルを聞きたい場合は

[START/STOP] キーを2回押します。“▲”または“▼”マークが点滅して、次のチャンネルまでサーチを開始します。

4. マニュアルサーチをする場合①

メモリーバンクに登録済みのエリアをマニュアルサーチします。



1 受信エリアを呼び出します。

受信エリア (バンク及びエリアNo) を指定します。

2 オートサーチが停止しているときに ▲ キーまたは ▼ キーを押します。

3 ▲ キーまたは ▼ キーを押す度に、押した方向に1ステップずつ受信チャンネルが移動します。

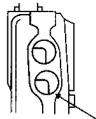
4 キーを押し続けた場合は、キーから離すまでエリア内をサーチします。

5. マニュアルサーチをする場合②

本機のダイヤルを回すことによりマニュアルサーチができます。ダイヤルを右に回せば1ステップずつ受信チャンネルが上に移動します。ダイヤルを左に回せば1ステップずつ受信チャンネルが下に移動します。



6. モニター機能



「モニター機能」とは信号の弱い電波を受信するための機能です。

1. [MON] キーを押します。
 - LCDディスプレイに“HOLD”を表示していたり“▲”“▼”マークが消えている場合は、“▲”と“▼”マークがおそい点滅をします。
 - LCDディスプレイに“▲”または“▼”マークが点灯している場合は逆方向のマークがおそい点滅をします。

2. モニターを解除する場合は [MON] キーを再度押すか、オートサーチさせます。

7. スケルチの設定



「スケルチ」とは信号が入ってこないときに、スピーカーからノイズが出ないようにするための機能です。

1. [MON] キーを1秒以上押すとスケルチ設定画面が表示されます。



設定値

2. [MON] キーを押しながらダイヤルを回して設定します。設定範囲は0～15で、数値が大きくなるとスケルチレベルは高くなります。初期設定は8に設定してあります。

× モ

- スケルチレベルを高く設定し過ぎると、オートサーチ（自動選局）はしますが、弱い電波を受信できなくなります。また低く設定し過ぎると、オートサーチしにくくなります。電波状況に合せ設定してください。
- スケルチレベルを初期設定の8に戻すには(FUC)キーを押してから5秒以内に [MON] キーを押してください。

8. 応用操作編（ステップ1）

1. 聞きたい周波数（チャンネル）をダイレクトに受信する。

お聞きになりたい周波数（チャンネル）を数字キーで入力し、ダイレクトにそのチャンネルを受信します。

（例として871.0125MHzのチャンネルをダイレクトに受信する）

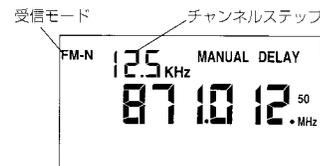
1] マニュアルモードにします。



(FUC) キーを押してから5秒以内に (BAK) キーを押してLCDの表示をMANUALにします。このキー操作の度に、BANK ← → MANUALが切替ります。

2] 受信したいチャンネル[871.0125]MHzを入力します。

数字キーで(8)(7)(1)(0)(1)(2)(5)の順で入力します。入力ミスした場合は、(CLR) キーを押して周波数表示を消して再入力してください。



3] 入力した周波数の確定をします。

(ENT) キーを押してください。

入力したチャンネルで受信状態になります。

× モ

- 周波数を確定すると、入力したチャンネルの小数点以下の桁が、チャンネルステップと一致するように自動補正されます。たとえばチャンネルステップが12.5KHzの場合、871.015を入力すると、871.0125になります。希望周波数に合うように、チャンネルステップの変更をしてください。（P19チャンネルステップの設定参照）
- 受信モードが合っていない場合、音声が変ったり、受信できなくなる場合があります。その場合は正常な音声で聞こえるように、受信モードを切替えてください。（P19受信モードの設定参照）
- マニュアルモードにすると、エリアの指定の範囲がなくなり、オールバンド（0.1～2200MHz）での受信ができます。

2. チャンネルステップの設定

受信エリアの全帯域で、チャンネルステップを切り替えることができます。また、切り替えたチャンネルステップで、オートサーチおよびマニュアルサーチができます。

- 切替可能なチャンネルステップ：5、6.25、9、10、12.5、20、25、30、50、100

①チャンネルステップの変更



チャンネルステップとは次の周波数に移行する周波数の幅を指します。

①(S/PR)キーを押す度にチャンネルステップ表示が
→5→6.25→9→10→12.5→20→25→30→50→100と切り替ります。

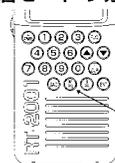


- チャンネルステップが受信エリアのステップ（初期設定のステップ）と合っていない場合は、チャンネルを受信できなくなる場合があります。初期設定時のステップと合うように、チャンネルステップを切り替えてください。例えばチャンネルステップの初期設定が12.5KHzの場合、6.25KHz（1/2倍）、25KHz（2倍）、50KHz（4倍）、100KHz（8倍）
- 受信エリアとチャンネルステップの関係はP12「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。
- チャンネルステップを小さく（狭く）設定した場合は、エリア内を細かく受信します。また、大きく（広く）設定した場合は、エリア内を素早くサーチできます。

3. 受信モードの設定

受信エリアの全帯域で、受信モードを切り替えることができます。また、切り替えた受信モードで、オートサーチおよびマニュアルサーチができます。

①受信モードの切り替え



①(M/PS)キーを押す度に受信モード表示が
→FM-N→FM-W→AMと切り替ります。



メモ

- 受信エリアと受信モードが合っていない場合、音声が変わったり、受信できなくなる場合があります。その場合は、正常な音声で聞こえるように、受信モードを切り替えてください。
- 受信エリアと受信モードの関係はP12「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。

4. ディレイ時間の設定

受信エリアの全帯域で、ディレイ時間（受信待ち時間）を切り替えることができます。また、切り替えたディレイ時間で、オートサーチおよびマニュアルサーチができます。

①ディレイ時間の切り替え



ディレイ時間とはオートサーチ中に信号が入ったため一時的停止されたサーチを受信が終了したり、電波が弱くなって受信できなくなったとき、一定時間後に自動的に再スタートさせる機能です。

1. (FUC)キーを押してから5秒以内に①キーを押します。
2. ①キーを押す度にディスプレイ表示が
→HOLD→2 SEC→6 SEC→10 SECと切り替ります。
3. 希望の設定表示で(ENT)キーを押すと確定されます。
4. 初期設定にもどす場合は、バンクにもどるか、エリア変更してください。

メモ

- ディレイ時間をホールド（ディスプレイに“HOLD”）に設定した場合、一度チャンネルを受信すると、そのチャンネルで受信待ち状態になり、オートサーチをしなくなります。受信エリアに合ったディレイ時間にしてください。
- 受信エリアとディレイ時間の関係は、P12「メモリーバンクの受信エリア」をご覧ください。

5. 秘話通信（スクランブル）の解読

コードレス電話の秘話通信機能（スクランブル機能）は、おもに音声反転式が使用されています。秘話通信を受信する場合、そのままでは音声として聞くことはできません。本機は、コードレス電話の音声反転式秘話通信を解読することができます。

1 秘話通信を受信

バンクAのエリア1をオートサーチします。モガモガと言っているような音声が聴こえてきたら秘話通信です。

2 (FUC) キーを押し5秒以内に(Ⓚ)キーを押します。

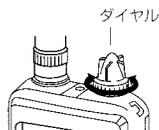


LCDディスプレイに“SB”の表示が点灯します。



スクランブル表示

3 ダイアルを回して、音声が聞きとりやすい位置に調整します。



メモ

- 秘話解読機能は、受信中のチャンネルのみ有効です。オートサーチなどで受信チャンネルが変わった場合は、秘話解読機能が解除されます。
- 本機は音声反転式以外の秘話通信を解読することはできません。また自動車電話および携帯電話の秘話通信は解読できません。

6. プログラム受信

複数の受信エリアを順番にサーチします。

(例) バンクAのエリア1→エリア6→バンクBのエリア5→エリア6を連続サーチする。

1 バンクモードにします。

(FUC) キーを押してから5秒以内に (BAK) キーを押してBANKモードにします。

2 最初のエリアNo.を指定します。

1. (BAK) キーを押してバンクAにします。
2. (1) キーを押してエリア1を指定します。

3 プログラム受信モードにします。

(FUC) キーを押してから5秒以内に(Ⓚ)キーを押してプログラム受信モードにします。プログラムモードにすると“PRG”が点灯し最初のエリアNo.とバンクが点滅します。(ここでは1とAが点滅)

プログラム受信表示



4 プログラム受信するエリアを指定します。

1. エリア6を指定します。
(6) キーを押します。“ピー”と音が鳴り確定されます。
(表示は変化しません。)
2. つぎにバンクBに切替えます。
(BAK) キーを押すとバンク表示がABとなりBが点灯します。(Aは点滅)
3. エリア5を指定します。
(5) キーを押します。“ピー”と音が鳴り確定されます。
4. エリア6を指定します。
(6) キーを押します。“ピー”と音が鳴り確定されます。

5 プログラムサーチします。

1. (STAB) キーを押してサーチさせます。
このとき、サーチ中のバンクおよびエリアNo.が点滅します。
注) バンクAサーチ中バンクBは点灯しています。

6 プログラム受信を解除するときは

(FUC) キーを押してから5秒以内に(Ⓚ)キーを押します。

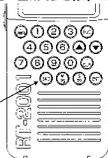
9. 応用操作編 (ステップ2)

1. 盗聴電波の受信

無線式盗聴器の発信周波数は、特定の周波数帯が使用されています。本機は、無線式盗聴器によく使用されているVHF/UHF帯の周波数を専用バンクにメモリー登録しています。(ディテクターモード)

① 盗聴電波受信モードにします。

ⓑ(BAK)キーを1秒以上長押しします。
“DET”が表示されます。



盗聴、盗聴受信モード表示

② 盗聴エリアを呼び出します。

①キーを押します。



盗聴電波受信エリア表示

③ オートサーチまたはマニュアルサーチします。

④ サーチエリア内に信号(電波)があれば、受信状態になります。

電波を受信するとアラームが3回鳴り、同時にLCDディスプレイも点滅します。

⑤ 受信音を出力します。

受信音により盗聴電波が否か判断してください。

⑥ 盗聴電波受信モードの終了

ⓑ(BAK)キーを1秒以上長押しします。

メモ

- (FUC)キーを押し、5秒以内にⓐキーを押すとアラーム出力モードになります。アラーム出力モードでは受信中にレベルメーターのレベルに合わせてピッチが変化するアラーム音を出します。音声出力に戻すには再度同様のキー操作をします。

2. 盗聴電波の受信

無線式盗聴器の発信周波数は、特定の周波数帯が使用されています。本機は、無線式盗聴器によく使用されている映像周波数を専用バンクにメモリー登録しています。

① 盗聴電波受信モードにします。

ⓑ(BAK)キーを1秒以上長押しします。“DET”が表示されます。



盗聴、盗聴受信モード表示

② 盗聴エリアを呼び出します。

②キーを押します。



盗聴電波受信エリア表示

③ オートサーチまたはマニュアルサーチします。

④ サーチエリア内に信号(電波)があれば、受信状態になります。

電波を受信するとアラームが3回鳴り、同時にLCDディスプレイも点滅します。

⑤ 音声周波数に切り替えます。

ⓑ(FUC)キーを押し、5秒以内にⓐキーを押します。“DET”が点滅し、映像周波数が音声周波数に変わります。(音声周波数は映像周波数の4.5MHz上にあります)



メモ

- 無線式盗聴器の発信周波数はテレビの映像周波数が使用されていることが多く、音声周波数を受信することにより、テレビが否か判断することができます。
- (FUC)キーを押し、5秒以内にⓐキーを押すとアラーム出力モードになります。アラーム出力モードでは受信中にレベルメーターのレベルに合わせてピッチが変化するアラーム音を出します。映像/音声出力に戻すには再度同様のキー操作をします。

3. 盗聴、盗撮器の場所の特定方法

盗聴、盗撮電波を受信することにより、盗聴、盗撮器の場所を特定することができます。受信した電波が、盗聴、盗撮電波だと確認できましたら、場所の特定をします。

- ① レベルメーターを方向探知器表示にします。
1. (FUC) キーを押し、5秒以内に (PWR) キーを押します。
2. レベルメーターが上下に変化する方向探知表示になります。
 - ② 本機を移動させメータの振れが高かった方向に進みます。
-
- ③ 電波が強くなり、本機を移動してもメーターが最大になり、変化がなくなりましたら、アンテナをはずし、アッテネーターをONにして再度方向探知をします。
(アッテネーターの操作方法はP39「アッテネーターのON/OFF」を参照)
 - ④ 盗聴器に接近すると、ボリュームを上げることにより「ワーン」と大きなハウリング音が鳴り特定することができます。

メモ

- 本機は、VHF/UHF帯の無線を使用した盗聴器、テレビの映像周波数等を使用した盗撮器の発信電波を受信するものです。盗聴、盗撮器はその性質上、発見が難しい場所や、「こんなものが」と思うものにセットされています。発見が難しい場合や、危険を伴うおそれがある場合は、専門の調査機関に依頼してください。

● テレビ周波数一覧表

無線式盗撮器の発振周波数は、テレビの映像周波数が使用されていることが多く、盗撮器を探しているときにテレビの映像周波数を受信することがあります。その際にご参照ください。

CH	映像周波数 (MHz)	音声周波数 (MHz)	VHF/UHF帯
1	91.2500	95.7500	VHF
2	97.2500	101.7500	VHF
3	103.2500	107.7500	VHF
4	171.2500	175.7500	VHF
5	177.2500	181.7500	VHF
6	183.2500	187.7500	VHF
7	189.2500	193.7500	VHF
8	193.2500	197.7500	VHF
9	199.2500	203.7500	VHF
10	205.2500	209.7500	VHF
11	211.2500	215.7500	VHF
12	217.2500	221.7500	VHF
13	471.2500	475.7500	UHF
14	477.2500	481.7500	UHF
15	483.2500	487.7500	UHF
16	489.2500	493.7500	UHF
17	495.2500	499.7500	UHF
18	501.2500	505.7500	UHF
19	507.2500	511.7500	UHF
20	513.2500	517.7500	UHF
21	519.2500	523.7500	UHF
22	525.2500	529.7500	UHF
23	531.2500	535.7500	UHF
24	537.2500	541.7500	UHF
25	543.2500	547.7500	UHF
26	549.2500	553.7500	UHF
27	555.2500	559.7500	UHF
28	561.2500	565.7500	UHF
29	567.2500	571.7500	UHF
30	573.2500	577.7500	UHF

CH	映像周波数 (MHz)	音声周波数 (MHz)	VHF/UHF帯
31	579.2500	583.7500	UHF
32	585.2500	589.7500	UHF
33	591.2500	595.7500	UHF
34	597.2500	601.7500	UHF
35	603.2500	607.7500	UHF
36	609.2500	613.7500	UHF
37	615.2500	619.7500	UHF
38	621.2500	625.7500	UHF
39	627.2500	631.7500	UHF
40	633.2500	637.7500	UHF
41	639.2500	643.7500	UHF
42	645.2500	649.7500	UHF
43	651.2500	655.7500	UHF
44	657.2500	661.7500	UHF
45	663.2500	667.7500	UHF
46	669.2500	673.7500	UHF
47	675.2500	679.7500	UHF
48	681.2500	685.7500	UHF
49	687.2500	691.7500	UHF
50	693.2500	697.7500	UHF
51	699.2500	703.7500	UHF
52	705.2500	709.7500	UHF
53	711.2500	715.7500	UHF
54	717.2500	721.7500	UHF
55	723.2500	727.7500	UHF
56	729.2500	733.7500	UHF
57	735.2500	739.7500	UHF
58	741.2500	745.7500	UHF
59	747.2500	751.7500	UHF
60	753.2500	757.7500	UHF
61	759.2500	763.7500	UHF
62	765.2500	769.7500	UHF

10. 応用操作編 (ステップ3)

1. メモリーの登録

本機は、チャンネルメモリー600チャンネル(200ch×3エリア)およびエリアメモリー3エリアをメモリーバンクにメモリー登録することができます。また不要なチャンネルをパスするチャンネルパスメモリーや、特定のチャンネルを優先受信するプライオリティ・チャンネルメモリーがあります。

メモリー	メモリー数
チャンネルメモリー (各バンクのエリア⑩)	200ch×3エリア
エリアメモリー (各バンクのエリア⑨)	1エリア×3バンク
チャンネルパスメモリー	200ch
プライオリティ・チャンネルメモリー	10ch
盗聴・盗撮メモリー (ディテクターモードのエリア⑪⑫)	20ch×2エリア

2. チャンネルメモリーの登録、受信

特定のチャンネル(周波数)を、各バンクのエリア⑩に登録することができます。チャンネルは各バンクに、それぞれ200chずつ登録することができます。

登録方法

- ①登録をするチャンネル(周波数)を受信します。
オートサーチ、マニュアルサーチにより登録するチャンネルを受信します。登録するチャンネル(周波数)がわかっているときは、ダイレクト受信をしてください。
- ②チャンネルメモリーの登録モードにします。
(ENT)キーを1秒以上押してください。
チャンネルメモリー登録モードとなり、チャンネル表示部が点滅します。
- ③登録するバンクを指定します。
(BAK)キーでバンクを指定します。
- ④チャンネルNo.を指定します。
▲/▼キーまたは数字キーで登録するメモリーチャンネルを指定します。
- ⑤メモリー登録します。
(ENT)キーを押してください。
チャンネルメモリー登録が終了し元の表示に戻ります。



メモ

- バンクを指定しない場合は、受信中のバンクのエリア①に登録されます。
- チャンネルNo.を指定しない場合は、未登録のチャンネルNo.のうち、最小のチャンネルNo.に登録されます。
- ダイレクト受信するときは、受信周波数範囲内の周波数を入力してください。その場合、チャンネルステップ、受信モード、ディレイ時間も指定してください。
- 登録モード中、10秒間無操作、または(CLR)キー入力で解除となります。
- バンクモードでエリア0を受信中の時、またはサーチ、スキャン中は登録できません。

登録したチャンネルを受信する

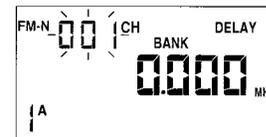
- 1 バンクを指定します。
(BAK)キーでバンクを指定します。
- 2 エリア0を指定します。
数字キーの0を押してください。
- 3 チャンネルNo.を指定します。
▲▼キーを押してチャンネルNo.を指定します。
- 4 指定したチャンネルNo.に登録されている周波数で受信状態になります。

メモ

- エリア①内の全てのチャンネルをオートサーチする場合は [START/STOP] キーを押してください。

チャンネルメモリーの消去方法

- 1 チャンネルメモリーの消去モードにします。
(ENT)キーを1秒以上押します。
チャンネルメモリー消去モードになり
チャンネル表示部が点滅します。
- 2 バンクを指定します。
(BAK)キーでバンクを指定します。
- 3 消去するチャンネルNo.を指定します。
▲▼キーまたは数字キーで消去するチャンネルを指定します。
- 4 指定したチャンネルを消去します。
(CLR)キーを1秒以上押します。
周波数表示が0000となり消去完了。
- 5 消去モードの終了
(CLR)キーを押します。
消去モードが終了し、元の表示に戻ります。
(約10秒間の無操作でも終了します。)



3. エリアメモリーの登録、受信

特定の周波数帯域を各バンクのエリア⑨に登録することができます。
登録は各バンクに1エリアずつ登録することができます。

登録方法

(例) 108~170MHzの範囲を、受信モード[AM]、チャンネルステップ[50KHz]、
ディレイ時間[6秒]でバンクAにメモリー登録する場合

- 1 エリアメモリー登録モードにします。
(FUC)キーを押し、5秒以内に④キーを押します。
エリアメモリー登録モードになり、“BANK”表示が点滅し、エリア番号⑨が表示されます。
- 2 登録するバンクを指定します。
(BAK)キーを押し、バンクを“A”に切り替えます。
- 3 受信モードを指定します。
(M PS)キーを押し、受信モードを“AM”に切り替えます。
- 4 チャンネルステップを指定します。
(S PR)キーを押し、チャンネルステップを“50KHz”に切り替えます。
- 5 ディレイ時間を指定します。
①キーを押し、ディレイ時間を“6 SEC”に切り替えます。
(注) ディレイ時間を指定しない場合は⑦に進んでください。
- 6 (ENT)キーを押して確定します。
- 7 下限周波数の設定をします。
(ENT)キーを押してください。
“▼”と“MHz”が点滅し、“BANK”が点灯します。
- 8 下限周波数の入力を行います。
数字キーにより、108.000と入力します。
- 9 下限周波数を確定します。
(ENT)キーを押して確定します。
このとき、周波数表示は、1チャンネルステップ上の表示になります。“▲”が点滅します。



- 10 上限周波数の入力を行います。
数字キーにより、170.000と入力します。
- 11 上限周波数を確定します。
(ENT)キーを押して確定します。
バンクAのエリア⑨にメモリー登録されます。
- 12 エリアメモリーの登録モードを終了する場合は(FUC)キーを押してください。
10秒間の無操作でも終了します。

メモ

- かならず下限周波数を設定してから上限周波数を設定してください。
- エリアを設定するときは、かならず本機の受信範囲内としてください。
- 登録モード中10秒間の無操作、または(FUC)キー入力で解除となります。
- 同じ場所にメモリー登録すると、前の登録は消去されます。(上書きされます。)
- エリアメモリーにメモリーした内容を個別に消去することはできません。エリアメモリーを消去するには、P41メモリーオールクリアをおこなってください。

受信方法

- 1 バンクを指定します。
(BAK)キーを押して切り替えてください。
- 2 エリア⑨を指定します。
数字キーの⑨を押してください。
- 3 オートサーチを開始します。
(START)キーを押してください。
登録したエリア内をオートサーチします。

4. 盗聴、盗撮電波の登録

ディテクターモードのエリア①②に登録されたチャンネル以外によく聞く周波数を登録することができます。

登録方法

①盗聴、盗撮電波登録モードにします。

(FUC) キーを押し、5秒以内に(5) キーを押します。

盗聴、盗撮電波登録モードになり、“DET”点灯、エリア番号“1”が点滅します。



②エリアを指定します。

数字キーの①または②を押し、エリアを指定します。

③エリアを確定します。

(ENT) キーを押して確定します。

確定されるとエリアNo.が点灯します。チャンネル番号が点滅します。

④チャンネルを指定します。

(▲) (▼) キーまたは数字キーでチャンネルを指定します。

⑤チャンネルを確定します。

(ENT) キーを押して確定します。

確定されるとチャンネルNo.が点灯します。“MHz”表示が点滅します。

⑥周波数を入力します。

数字キーで周波数を入力します。

⑦周波数を確定します。

(ENT) キーを押して確定します。

⑧登録モードを終了する場合は(FUC) キーを押してください。

10秒間の無操作でも終了します。

メモ

- 登録できるチャンネル数はディテクターモードのエリア①②各々20chで計40chです。
- 全てのメモリーが未登録の時は、チャンネル番号は“000”を表示します。
- 登録済のメモリーがある時は、未登録のメモリーチャンネルの内、最も若い番号を表示します。
- 全てのメモリーが登録済の時は、チャンネル番号は“000”を表示します。
- 登録モード中10秒間の無操作、または(FUC)キー入力で解除となります。
- 同じ場所にメモリー登録すると前の登録は消去されます。(上書きされます。)
- 登録した内容を個別に消去することはできません。消去するには、P41メモリーオールクリアをおこなってください。

5. パスメモリーの登録

制御チャンネルなど、受信に不要なチャンネルをパスメモリーに登録しておく、オートサーチ中は、登録したチャンネルをパスします。

登録方法

①不要なチャンネルを受信します。

オートサーチにより不要なチャンネルを受信します。

②パスメモリーに登録します。

(M PS) キーを1秒以上押します。

LCDディスプレイに“PASS”の文字とチャンネルNo.を約1秒間表示し、登録されます。

登録後、マニュアルモード以外は、次のチャンネルにより自動的にオートサーチをします。

- パスメモリーには最大200chまでメモリー登録できます。
- 登録はパスメモリーのチャンネル番号の若い順に行います。最大登録数を超えると、以降は無効となります。

消去方法

登録したパスメモリーを個別に消去します。

①パスメモリー消去モードにします。

(FUC) キーを押し、5秒以内に(M PS) キーを押します。

LCDディスプレイに“P.clr”と約1秒間表示し、最後に登録したチャンネルが表示されます。

②消去するチャンネルNo.を指定します。

(▲) (▼) キーまたは数字キーでチャンネルを指定します。

③指定したチャンネルを消去します。

(CLR) キーを1秒以上押します。

消去完了

④消去モードの終了

(FUC) キーを押します。

消去モードが終了し、元の表示に戻ります。

(約10秒間の無操作でも終了します)

6. プライオリティ・チャンネルメモリーの登録、受信

他のチャンネルを受信中でも、プライオリティ・チャンネルの検索をおこない、信号があれば優先受信します。

プライオリティ・チャンネルは000CH~009CHまでの10チャンネルがあります。

※000CHには350.1MHz（速度取締連絡波）が初期登録されて、変更は不可です。

登録方法

1 登録モードにします。

(FUC)キーを押し、5秒以内に(S/PRI)キーを押します。

プライオリティ・チャンネル登録モードになりディスプレイの“PRI”とチャンネルNo.が点滅します。

2 チャンネルNo.を指定します。

(▲) (▼) キーまたは数字キーで登録チャンネルを指定します。

3 チャンネルNo.を確定します。

(ENT)キーを押して確定します。

確定するとチャンネルNo.が点灯します。“MHz” が点滅します。

4 優先する周波数を入力します。

数字キーで周波数を入力します。

5 周波数の受信モードを設定します。

(M/PS) キーで受信モードを指定してください。

6 周波数を確定します。

(ENT)キーを押して確定します。

7 登録モードの終了

(FUC)キーを押します。

登録モードが終了し、元の表示に戻ります。

(約10秒間の無操作でも終了します)

メモ

- 登録モード中10秒間の無操作、または(FUC)キー入力で解除となります。
- 全てのメモリーが未登録の時は、チャンネル番号は“000”を表示します。
- 登録済みのメモリーがある時は、未登録のメモリーチャンネルの内最も若い番号を表示します。
- 全てのメモリーが登録済みの時は、チャンネル番号は“000”を表示します。

プライオリティ・チャンネルの受信方法

1 プライオリティ・チャンネル選択モードにします。

(S/PRI)キーを1秒以上押す。

選択モードになり“PRI”とチャンネルNo.が点滅します。

2 受信するチャンネルを指定します。

(▲) (▼) キーまたはテンキーで受信するチャンネルを指定します。

3 受信するチャンネルを確定します。

(ENT)キーを押して確定します。

“PRI”とチャンネルNo.が点灯し確定されます。

4 プライオリティ・チャンネルに信号があれば、受信状態になります。

ディスプレイのチャンネル表示部の頭に“P”が表示されます。



5 プライオリティ受信を解除するには(S/PRI)キーを1秒以上押したあと(CLR)キーを押します。

メモ

- プライオリティ・チャンネルの信号検出時は受信中の音声は3秒間隔で途切れますが、故障ではありません。

プライオリティ・チャンネルの消去方法

登録したチャンネルを消去する場合は

- ① 消去モードにします。
 (FUC)キーを押し、5秒以内に(S/PR)キーを押します。
 ディスプレイの“PRI”とチャンネルNo.が点滅します。
- ② 消去するチャンネルNo.を指定します。
 ▲▼キーまたは数字キーで消去するチャンネルを指定します。
- ③ 消去するチャンネルNo.を確定します。
 (ENT)キーを押して確定します。
 確定するとチャンネルNo.が点灯します。
 “MHz”が点滅します。
- ④ 消去します。
 (CLR)キーを1秒以上押しと消去され周波数表示が 0000 となります。
- ⑤ 消去モードの終了
 (FUC)キーを押します。
 消去モードが終了し、元の表示に戻ります。
 (約10秒間の無操作でも終了します)

11. ファンクションキーを使用した機能

ファンクションキーと各機能キーとの組み合わせにより、各種の便利な機能を使用することができます。

操作方法

(FUC)キーを押して、LCDディスプレイに“FUNC”が点滅している間(5秒間)に各機能キーを押します。

	機能キー	ファンクションモードでの機能	
	① (HOLD/DELAY)	ディレイ時間の切り替え	→P20
	② (AUTO START)	1～9秒 オートスタート	
	③ (ATT)	アッテネーターのON/OFF	
	④ (AREA MEMO)	エリアメモリーの登録	→P31
	⑤ (DET MEMO)	盗聴、盗撮電波の登録	→P33
	⑥ (DET ALARM)	盗聴、盗撮電波受信時、音声↔アラームの切替え	→P23
	⑦ (P.SAVE OFF)	オートパワーオフ機能のON/OFF	
(FUC) →	⑧ (PROGRAM)	プログラム受信の設定	→P22
	⑨ (TONE)	キートーンON/OFF	
	⑩ (SB)	秘話通信 (スクランブル) の解読	→P21
	(L/PWR) (SCOPE)	チャンネルスコープ表示 (方向探知表示) ON/OFF	
	(BAK) (MANUAL)	バンクモード↔マニュアルモードの切り替え	→P14
	(M/PS) (PASS CLEAR)	パスメモリーの消去	→P34
	(S/PR) (PRI MEMO)	プライオリティ・チャンネルメモリーの登録	→P35
	(CLR)	バッテリーレベル表示	

注) “FUC” キーを押したあと、5秒以内に機能キーを押さない場合は、ファンクションモードが自動的に解除されます。

● **FUC** + ② ————— 〈1～9秒オートサーチ〉

設定した時間（1～9秒）受信すると、自動的にオートサーチを開始します。
数字キーか **▲** **▼** キーで時間を選択したあと、**ENT** キーを押してください。
中止するときは**FUC** キーを押すか5秒間の無操作をします。
このモードを解除するには、**FUC** キーを押して②キーを押します。

● **FUC** + ③ ————— 〈アッテネーターのON/OFF〉

受信アッテネーター（感度）のON/OFFをします。
アッテネーターをONにすると、受信感度が約15dB減衰します。
アッテネーターがONのときは、LCDディスプレイに“ATT”が表示されます。
強い電波を受信したときや混信がひどいときにアッテネーターをONにします。
解除するには**FUC** キーを押して③キーを押します。

● **FUC** + ⑦ ————— 〈オートパワーオフ機能のON/OFF〉

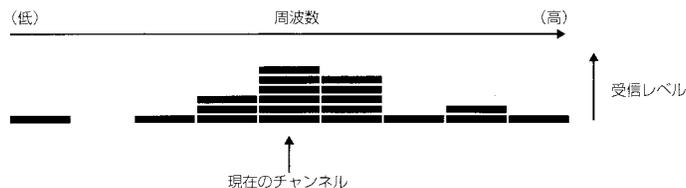
オートパワーオフのON/OFFをします。
⑦キーを押す度に **OFF** → 15MIN（分） → 30MIN（分） → 60MIN（分）
と切り替ります。設定後**ENT** キーを押して確定させます。
オートパワーオフON時、設定時間キー操作がない場合、自動的に電源が切れます。
電源が切れる30秒前から、5秒に1回ブザー音で知らせます。

● **FUC** + ⑨ ————— 〈キートンON/OFF〉

全てのキートン（キー操作時のブザー音）を消します。
解除するには**FUC** キーを押して⑨キーを押します。

● **FUC** + **CLF** ————— 〈チャンネルスコープ表示〉

チャンネルスコープ機能とは9チャンネル分の受信信号強度を表示させる機能です。
現在受信中のチャンネル（周波数）が中央に表示され周辺のチャンネル（周波数）が
その左右に表示されます。



(注意) ● この機能を表示中は周辺の信号をチェックする為、チェックの瞬間受信音が途切れます。
● 盗聴、盗撮電波受信モード時（ディテクターモード）に **FUC** + **PWR** の操作をすると方向探知表示になります。（P25）
このモードを解除するには**FUC** キーを押して **PWR** キーを押します。

● **FUC** + **CLF** ————— 〈バッテリーレベル表示〉

周波数表示部に“batt”と表示され、受信レベルメーターがバッテリーレベル表示となります。5秒後元の表示に戻ります。
ここで、電池の電圧が確認できます。電圧のバーレベルが低くなっている場合は、早めに電池交換をするか、ACアダプターを接続してください。
※電池容量が減ってくると、正常な動作ができなくなります。

12. 電源ON時の機能

各操作キーを押しながら電源を入れることで、次のような機能が使用できます。

- ① **BAK** キーを押しながら電源ON —— 〈LCD表示、バックライト5秒間全点灯〉
5秒間LCDの表示が全灯し、バックライトおよびキーボードが点灯して通常操作モードに入ります。
- ② **CLR** キーを押しながら電源ON —— 〈メモリーオールクリア〉
チャンネルメモリー等登録した内容を全て消去し、初期状態に戻します。メモリーの消去中は、LCDディスプレイに“Er”と表示されます。メモリーの消去が終了すると、自動的に電源がOFFになります。
※自動的に電源がOFFになるまでは、何も操作をしないでください。

13. 故障とお考えになる前に

ご使用中に異常を感じた時は、故障と思われる前に下記の点をお確かめください。

症 状	原 因
電源が入らない (画面表示しない)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が消耗している →新しい電池に交換してください ● 電源プラグが奥まで入っていない ● 外部電源がきていない
受信しない (音が出ない)	<ul style="list-style-type: none"> ● 音量が低い ● イヤホンが接続されている
音声が途切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● スケルチの設定が高すぎる →スケルチレベルを低く設定してください ● 電波が弱い ● アッテネーターがONになっている →アッテネーターをOFFにしてください ● プライオリティ受信をしている →プライオリティ受信を解除してください
受信音声がおかしい	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信モードがあっていない →受信モードを切り替えてください ● 秘話解説モードになっている →秘話解説を解除してください
変な信号音を受信する	<ul style="list-style-type: none"> ● 制御チャンネル信号やデジタル通信を受信している →音声での受信はできません
操作キーを押しても動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が消耗している
サーチしない	<ul style="list-style-type: none"> ● スケルチの設定が低すぎる →スケルチレベルを高く設定してください。

14. 主な仕様

- 電源電圧……………DC4.5V 単3形乾電池3本
DC12V 外部電源
- 受信周波数……………100KHz~2200MHz
- 音声出力……………約90mW (4.5V, 10%THD8Ω)
- 受信電波形式……………FM-N/FM-W/AM
- 周波数ステップ……………5/6.25/9/10/12.5/20/25/30/50/100KHz
- メモリー数……………エリアメモリー 1エリア×3バンク
チャンネルメモリー 200チャンネル×3エリア
パスメモリー 200チャンネル
プライオリティー 10チャンネル
盗聴・盗撮メモリー 20CH×2エリア
- アンテナインピーダンス……………50Ω
- 受信感度……………

	FM-N	FM-W	AM
0.5~2MHz	1.5μV	—	2.5μV
2~1500MHz	1.0μV	2.0μV	1.5μV
1500~2000MHz	2.5μV	—	—

(FM-N=12dB SINAD, FM-W=20dB S/N, AM=10dB S/N)
- 動作温度範囲……………-10℃~+60℃
- 外形寸法……………62 (W) ×30 (D) ×117 (H) mm
※アンテナおよび突起部は除く
- 質量……………180g
※乾電池含まず

保証規定

1. 保証期間内（お買い上げ日より1年間）に、正常な使用状態において万一故障した場合には無料で修理いたします。
2. 保証期間中に修理を依頼される場合は、本機に保証書を添えて、お買い上げ販売店にお持ちください。
3. 次のような場合には保証期間であっても有料修理となります。
 - (イ) 使用上の誤り、本機に改造を加えたことによる故障、またはお買い上げ店以外で修理されたことによる故障
 - (ロ) お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障や損傷
 - (ハ) 火災、地震、水害、公害、規定外の電源（電圧・周波数）の使用、その他天災地変などによる故障および損傷
 - (ニ) 保証書のご提示がない場合
 - (ホ) 保証書の指定事項の未記入、あるいは字句が書き替えられている場合
4. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。

修理メモ